

# 地 域 経 済 動 向

平成 18 年 11 月 29 日



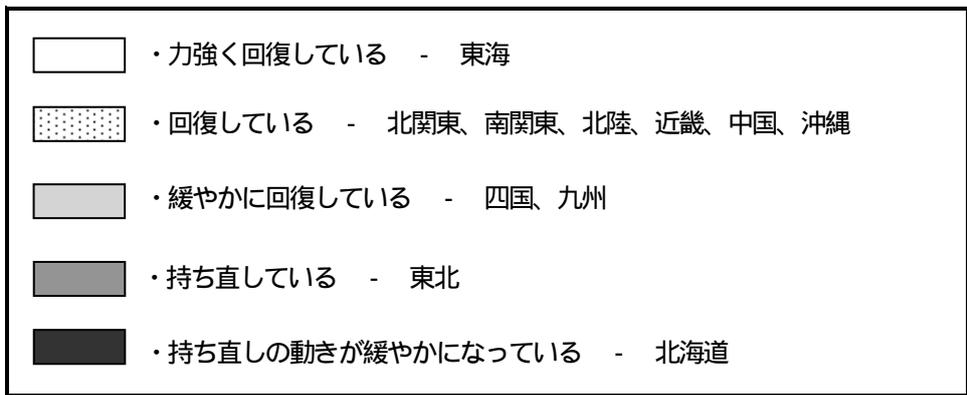
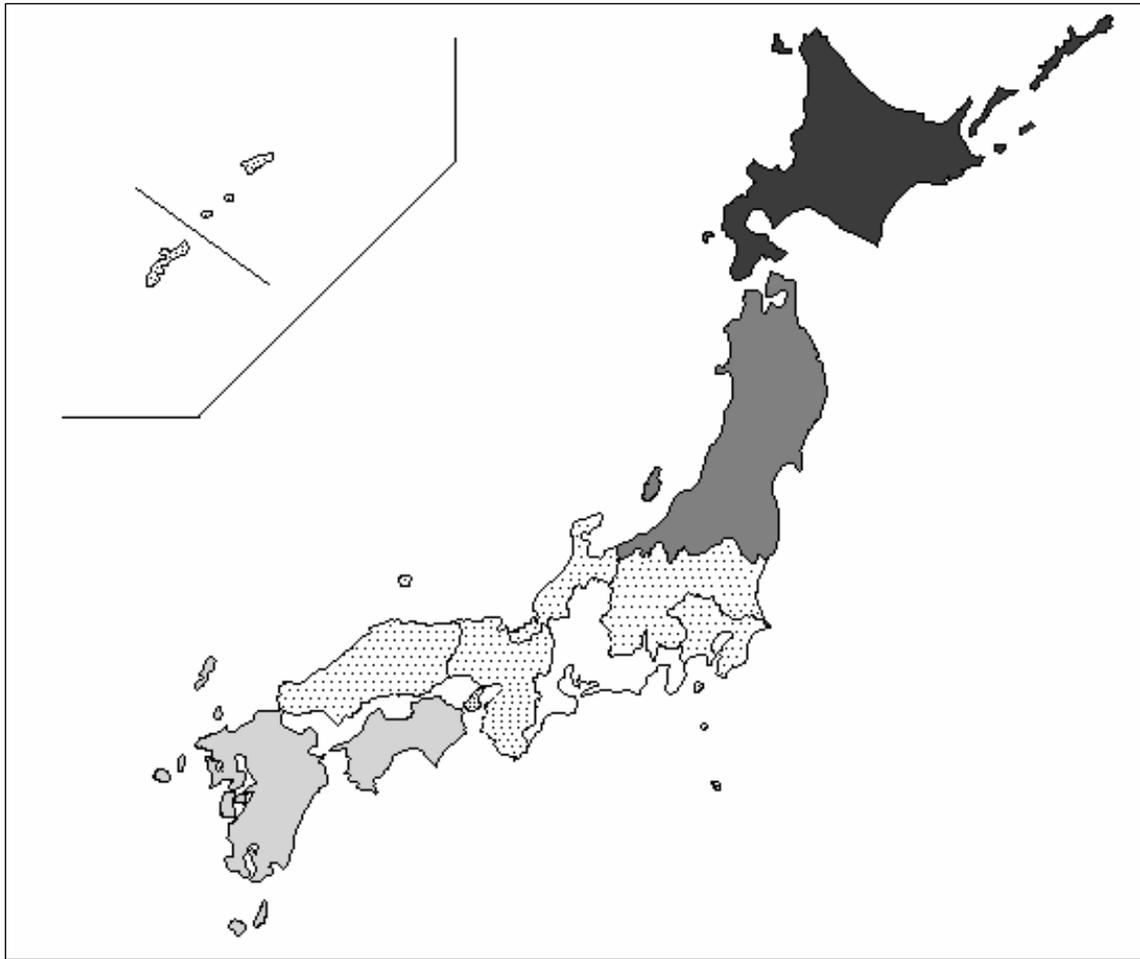
内閣府政策統括官室  
(経済財政分析担当)

## 目 次

- 1 概況
- 2 トピック
- 3 地域別の動向
  - (1) 北海道
  - (2) 東北
  - (3) 北関東
  - (4) 南関東
  - (5) 東海
  - (6) 北陸
  - (7) 近畿
  - (8) 中国
  - (9) 四国
  - (10) 九州
  - (11) 沖縄
- 4 主要指標
- 5 参考資料

# 1 概況

## (1) 各地域の景況判断



各地域の景況判断	北海道	東北	北関東	南関東	東海	北陸	近畿	中国	四国	九州	沖縄
力強く回復している											
回復している											
緩やかに回復している											
持ち直している											
持ち直しの動きが緩やかになっている											

(備考) は、今回調査の判断。 は、前回調査の判断。

今回調査（平成18年11月）の前回調査（平成18年8月）との比較

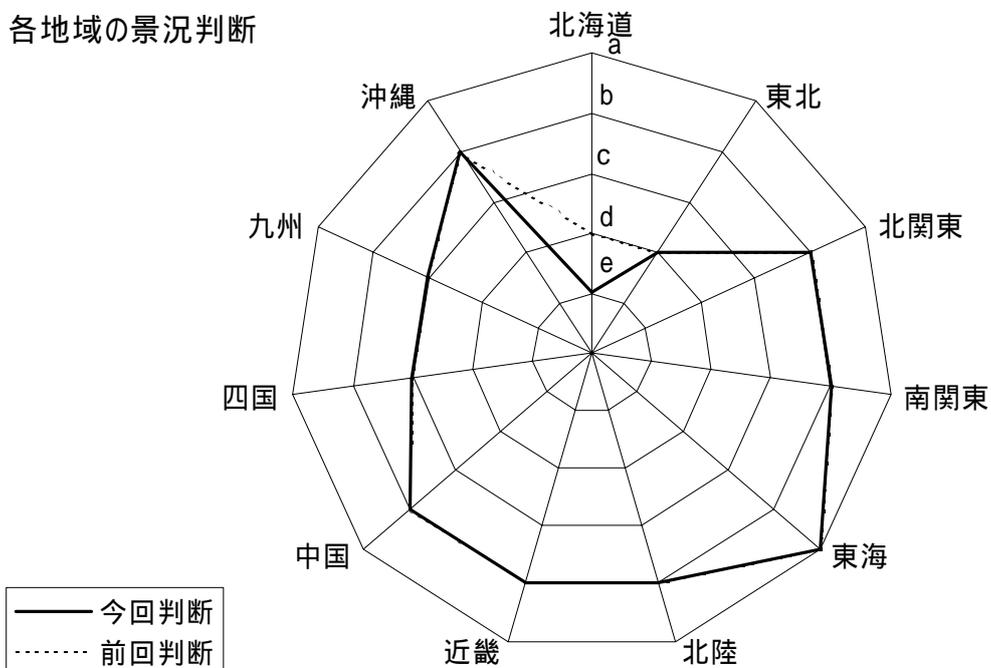
上方修正・・・なし

下方修正・・・1地域（北海道）

各地域の景況判断は、北海道では、鉱工業生産や雇用などを理由として、下方修正となった。

その他の10地域（東北、北関東、南関東、東海、北陸、近畿、中国、四国、九州、沖縄）の景況判断については前回調査と同じである。

各地域の景況判断



- a: 力強く回復している
- b: 回復している
- c: 緩やかに回復している
- d: 持ち直している
- e: 持ち直しの動きが緩やかになっている

( 2 ) 各地域の景況判断と主要変更点

		北海道	東 北	北関東	南関東	東 海
景況判断	8月 (前回)	持ち直している	持ち直している	回復している	回復している	力強く回復している
	11月 (今回)	持ち直しの動きが緩やかになっている	持ち直している	回復している	回復している	力強く回復している
鉱工業生産 (沖縄は観光)	8月	増加	緩やかに増加	緩やかに増加	緩やかに増加	堅調に増加
	11月	緩やかに増加	緩やかに増加	緩やかに増加	緩やかに増加	堅調に増加
個人消費	8月	おおむね横ばい	おおむね横ばい	緩やかに回復している	緩やかに回復している	緩やかに回復している
	11月	おおむね横ばい	おおむね横ばい	緩やかに回復している	緩やかに回復している	緩やかに回復している
雇用情勢	8月	依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きが続いている	依然として厳しい状況だが、改善が続いている	着実に改善している	着実に改善している	着実に改善している
	11月	依然として厳しい状況であり、持ち直しの動きが緩やかになっている	依然として厳しい状況だが、緩やかな改善傾向にある	着実に改善している	着実に改善している	着実に改善している

(注) は上方修正、 は変更なし、 は下方修正を表す。

北 陸	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄
回復している	回復している	回復している	緩やかに回復している	緩やかに回復している	回復している
回復している	回復している	回復している	緩やかに回復している	緩やかに回復している	回復している
緩やかに増加	増加	増加	緩やかに増加	増加	堅調に増加
緩やかに増加	増加	増加	緩やかに増加	増加	堅調に増加
緩やかに回復している	緩やかに回復している	緩やかに回復している	持ち直しの動きがみられる	持ち直している	緩やかに回復している
緩やかに回復している	緩やかに回復している	緩やかに回復している	持ち直しの動きがみられる	持ち直している	緩やかに回復している
着実に改善している	依然として厳しい状況だが、改善が続いている	着実に改善している	改善傾向にある	依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きも強い	依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きが続いている
着実に改善している	依然として厳しい状況だが、改善が続いている	着実に改善している	緩やかな改善傾向にある	依然として厳しい状況だが、緩やかな改善傾向にある	依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きが続いている

## 2 トピック

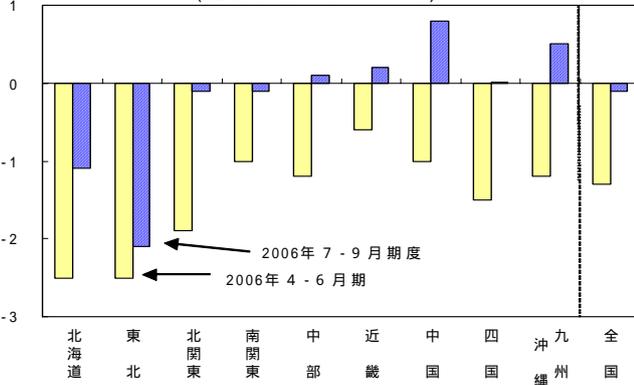
### <トピック1> 野菜の相場高でかさ上げされたスーパーの販売

スーパーの販売額の06年7 - 9月期をみると4 - 6月期と比べて前年比のマイナス幅が縮小し、プラスに転じたところもある(図1)。

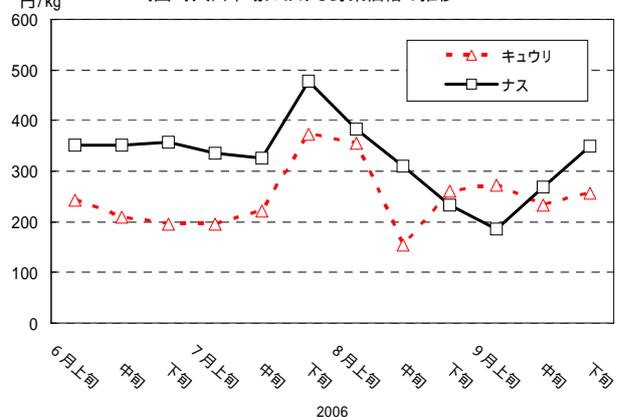
一方で、今年の7月～9月の天候を振り返ると梅雨明けが遅く、台風などの被害も出ている。大田市場における野菜価格をみても大幅な値上がりを示しているものがある(図2)。同期の景気ウォッチャーのコメントでは「長期にわたる天候不順により、生鮮品の相場の高騰がみられる」、「青果の相場が上がってきた」との指摘もあった。

そこで、スーパー販売関連品目を抽出・再構成した消費者物価(作成方法は付注を参照)をみると、同販売額は明らかに価格面からかさ上げされたと考えられる(表3)。百貨店販売などに比べ、生活必需品のウェイトが高いスーパー販売では、価格が上昇しても急に購買量が落ちない部分も多い。スーパー販売額の真の姿を捉えるには、スーパー販売の品目構成を考慮し実質化した販売額の伸び率をみる必要がある。よって、実質化した値をみると全地域で前年同期比のマイナスが続いている(図4)。

【図1】スーパー販売額  
(店舗調整済、前年比)



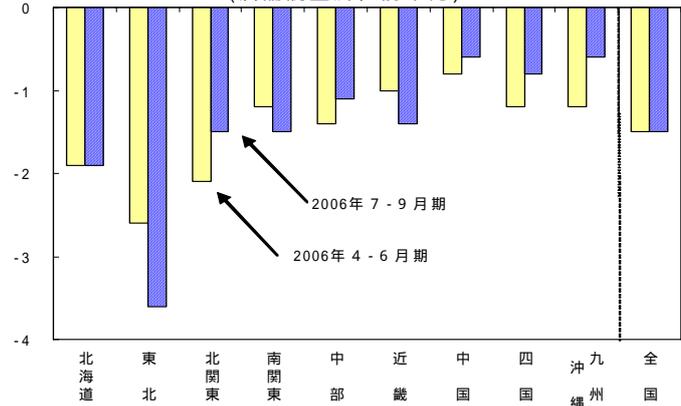
【図2】大田市場における野菜価格の推移



【表3】スーパー販売額ウェイト調整済CPI上昇率(前年比)  
～販売額デフレータの試算～

地域	品目	weight	2006年 (単位: %)		
			1-3月	4-6月	7-9月
北海道	スーパー総合	10000	1.3	0.6	0.8
	うち生鮮食品	1538	1.4	2.0	9.0
東北	スーパー総合	10000	1.0	0.2	1.5
	うち生鮮食品	1649	2.3	3.1	9.5
関東	スーパー総合	10000	0.6	0.2	1.4
	うち生鮮食品	1456	1.0	4.1	11.6
中部	スーパー総合	10000	0.9	0.2	1.2
	うち生鮮食品	1507	1.1	4.7	9.3
近畿	スーパー総合	10000	0.8	0.4	1.6
	うち生鮮食品	1442	1.5	4.1	9.6
中国	スーパー総合	10000	1.3	0.2	1.4
	うち生鮮食品	1343	4.3	1.8	10.3
四国	スーパー総合	10000	1.3	0.3	0.8
	うち生鮮食品	1462	2.9	3.2	8.6
九州・沖縄	スーパー総合	10000	1.1	0.0	1.1
	うち生鮮食品	1153	3.0	4.6	11.4
全国	スーパー総合	10000	0.8	0.2	1.4
	うち生鮮食品	1448	1.8	3.9	10.4

【図4】関係価調整済みスーパー販売額  
(店舗調整済、前年比)



(付注) 地域別販売額デフレータの試算方法(CPI品目構成・ウェイトの調整方法)

採用品目は以下のとおり、ウェイトについては商業販売統計のスーパー販売額の内訳(飲食料品、衣料品、その他)のシェアをCPIの食料品、被服及び履物及びその他にそれぞれ適用するとともに、その他の内訳のウェイトは、消費者物価指数のウェイトに合わせて振り分けている。なお、食料品販売に占める生鮮食品のシェアは、チェーンストア販売統計(日本チェーンストア協会)のデータをもとに全国一律の値を設定している。

採用品目 スーパー総合(CPIS) = 食料品(A) + 被服及び履物(B) + その他(C)  
 A = 生鮮食品 + 生鮮食品除く食料品  
 C = 医薬品・健康保持用摂取品 + 教養娯楽用耐久財  
 + 教養娯楽耐久財 + 教養娯楽用品 + 理美容品  
 + 身の回り用品 + たばこ + 外食

(出所) 図1: 経済産業省「商業販売額統計」による。図2: 農林水産省「旬別卸売数量・価格動向」による。  
 表3: 総務省「消費者物価指数」、上記統計及び日本チェーンストア協会「チェーンストア販売統計」による。  
 図4: 表3の品目構成、ウェイト調整済みの消費者物価指数で図1のスーパー販売額をデフレート。

<トピック2> 増加の続く北海道の観光

北海道の観光が好調に推移している。知床が世界自然遺産に登録された05年7月以降、大寒波による欠航が相次いだ06年1、2月を除き、おおむね前年を上回って推移している。(図1)。

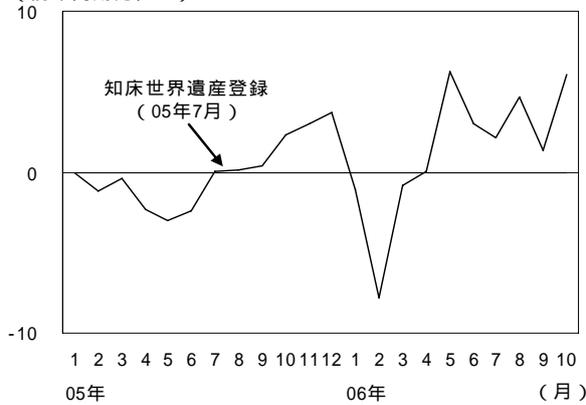
知床と並び、旭川市の旭山動物園も北海道人気をけん引している。入園者数は05年1月以降、毎月前年同月比2桁以上の伸びとなっており(図2)、06年10月までで既に過去最高の入園者数を更新している。

観光の好調さから、日銀短観の業況判断DI(飲食・宿泊)は、水準は依然として水面下であるものの、企業のマインドは着実に改善していることがわかる(図3)。

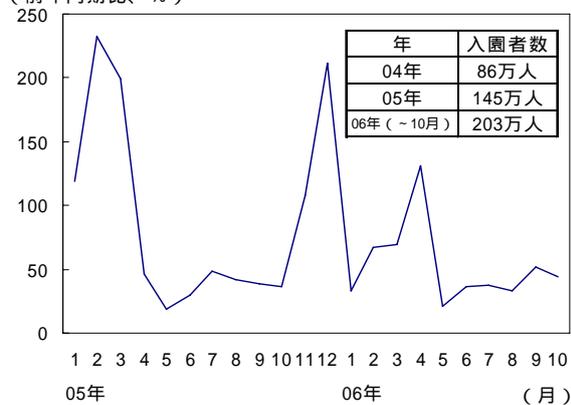
一方で、雇用面への波及は今一步となっている。飲食・宿泊業の新規求人数をみると、一進一退で推移する中、足元ではやや減少している(図4)。

今後、大規模な観光関連の投資案件もいくつか見受けられ(表5)、知床・旭山人気も継続していることから、北海道観光の好調さは今後も続くと考えられる。これがいかに雇用面へ波及していくかが課題であると考えられる。

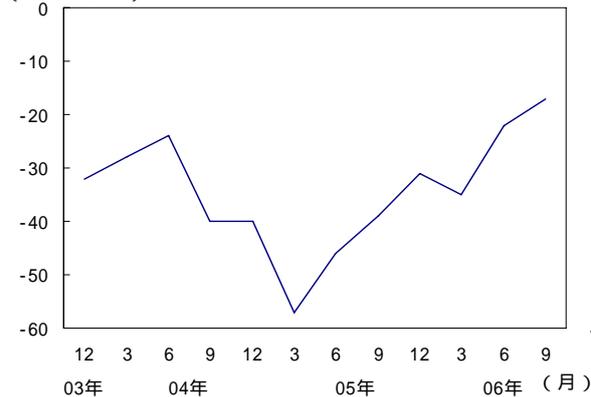
(前年同期比、%) 図1 来道客数



(前年同期比、%) 図2 旭山動物園入園者数



(%ポイント) 図3 業況判断DI(飲食・宿泊)



(前年同期比、%) 図4 新規求人数(飲食・宿泊)

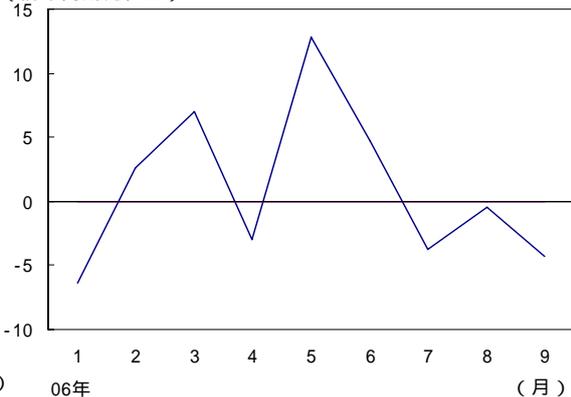


表5 観光関連の設備投資

着工年	業種	投資額(億円)	概要
06年	不動産	60	ニセコ地区に外国人向け複合宿泊施設を建設
06年	不動産	2.8	札幌・定山溪のホテルを大規模改装 1人1泊5万円のプレミアムスイートルーム新設
07年春	食品製造業	10	新工場を建設 主力の土産品を5割増産
08年	宿泊業	200	洞爺湖町に分譲型高級リゾートホテルを建設 1室2億5千万～3億円

(出所) 図1：北海道観光連盟調べ。 図2：旭山市立旭山動物園HPにより作成。

図3：日本銀行札幌支店「企業短期経済観測調査」により作成。

図4：北海道労働局「一般職業紹介状況」により作成。表5：新聞報道等により作成。